

## 4.1 インド訪問国活動（チェンナイ）

56. 訪問国活動はインドの歴史、現状、文化、国民への理解を深める助けになると思いますか。

|        | 5<br>(非常に思う) | 4<br>(思う) | 3<br>(どちらでもない) | 2<br>(あまりそう思わない) | 1<br>(全くそう思わない) | 無回答 | 平均  |
|--------|--------------|-----------|----------------|------------------|-----------------|-----|-----|
| 全参加青年  | 24%          | 44%       | 25%            | 8%               | 0%              | 0%  | 3.8 |
| 日本参加青年 | 28%          | 36%       | 27%            | 8%               | 1%              | 0%  | 3.8 |
| 外国参加青年 | 19%          | 52%       | 22%            | 7%               | 0%              | 0%  | 3.8 |

57. カラクシェトラ芸術学院への訪問には満足しましたか。

|        | 5<br>(大満足) | 4<br>(満足) | 3<br>(やや満足) | 2<br>(やや不満) | 1<br>(不満) | 無回答 | 平均  |
|--------|------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----|-----|
| 全参加青年  | 38%        | 38%       | 21%         | 3%          | 0%        | 0%  | 4.1 |
| 日本参加青年 | 30%        | 38%       | 26%         | 4%          | 1%        | 1%  | 3.9 |
| 外国参加青年 | 46%        | 38%       | 15%         | 2%          | 0%        | 0%  | 4.3 |

58. コース・ディスカッション別課題別視察には満足しましたか。

|         | 5<br>(大満足) | 4<br>(満足) | 3<br>(やや満足) | 2<br>(やや不満) | 1<br>(不満) | 無回答 | 平均  |
|---------|------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----|-----|
| 全参加青年   | 25%        | 27%       | 30%         | 16%         | 3%        | 0%  | 3.6 |
| 地域づくり   | 37%        | 32%       | 24%         | 5%          | 2%        | 0%  | 4.0 |
| 防災      | 11%        | 36%       | 33%         | 19%         | 0%        | 0%  | 3.4 |
| 教育      | 44%        | 24%       | 20%         | 7%          | 2%        | 2%  | 4.0 |
| 環境      | 10%        | 23%       | 31%         | 28%         | 8%        | 0%  | 3.0 |
| 情報・メディア | 26%        | 26%       | 26%         | 21%         | 0%        | 0%  | 3.6 |
| 青年起業    | 16%        | 22%       | 46%         | 14%         | 3%        | 0%  | 3.4 |

59. ラジブ・ガンディー国立青年育成機構(RGNIYD)への訪問には満足しましたか。

|        | 5<br>(大満足) | 4<br>(満足) | 3<br>(やや満足) | 2<br>(やや不満) | 1<br>(不満) | 無回答 | 平均  |
|--------|------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----|-----|
| 全参加青年  | 34%        | 38%       | 22%         | 6%          | 0%        | 0%  | 4.0 |
| 日本参加青年 | 30%        | 37%       | 25%         | 8%          | 0%        | 0%  | 3.9 |
| 外国参加青年 | 38%        | 38%       | 18%         | 4%          | 1%        | 1%  | 4.1 |

## 4.2 スリランカ訪問国活動（コロンボ）

60. 訪問国活動はスリランカの歴史、現状、文化、国民への理解を深める助けになると思いますか。

|        | 5<br>(非常に思う) | 4<br>(思う) | 3<br>(どちらでもない) | 2<br>(あまりそう思わない) | 1<br>(全くそう思わない) | 無回答 | 平均  |
|--------|--------------|-----------|----------------|------------------|-----------------|-----|-----|
| 全参加青年  | 60%          | 33%       | 6%             | 1%               | 0%              | 0%  | 4.5 |
| 日本参加青年 | 58%          | 33%       | 6%             | 3%               | 0%              | 0%  | 4.5 |
| 外国参加青年 | 62%          | 33%       | 5%             | 0%               | 0%              | 0%  | 4.6 |

61. コース・ディスカッション別課題別視察には満足しましたか。

|         | 5<br>(大満足) | 4<br>(満足) | 3<br>(やや満足) | 2<br>(やや不満) | 1<br>(不満) | 無回答 | 平均  |
|---------|------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----|-----|
| 全参加青年   | 48%        | 33%       | 12%         | 4%          | 0%        | 2%  | 4.3 |
| 地域づくり   | 24%        | 34%       | 29%         | 10%         | 0%        | 2%  | 3.8 |
| 防災      | 50%        | 44%       | 3%          | 0%          | 0%        | 3%  | 4.5 |
| 教育      | 69%        | 21%       | 5%          | 0%          | 0%        | 5%  | 4.7 |
| 環境      | 41%        | 44%       | 15%         | 0%          | 0%        | 0%  | 4.3 |
| 情報・メディア | 69%        | 25%       | 3%          | 0%          | 0%        | 3%  | 4.7 |
| 青年起業    | 35%        | 30%       | 16%         | 16%         | 3%        | 0%  | 3.8 |

62. 国家青年サービス評議会(NYSC)での活動には満足しましたか。

|        | 5<br>(大満足) | 4<br>(満足) | 3<br>(やや満足) | 2<br>(やや不満) | 1<br>(不満) | 無回答 | 平均  |
|--------|------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----|-----|
| 全参加青年  | 52%        | 33%       | 13%         | 1%          | 0%        | 1%  | 4.4 |
| 日本参加青年 | 43%        | 35%       | 19%         | 1%          | 0%        | 2%  | 4.2 |
| 外国参加青年 | 61%        | 31%       | 6%          | 2%          | 0%        | 0%  | 4.5 |

63. ホーム・ビジットには満足しましたか。

|        | 5<br>(大満足) | 4<br>(満足) | 3<br>(やや満足) | 2<br>(やや不満) | 1<br>(不満) | 無回答 | 平均  |
|--------|------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----|-----|
| 全参加青年  | 67%        | 21%       | 10%         | 1%          | 0%        | 2%  | 4.6 |
| 日本参加青年 | 73%        | 18%       | 8%          | 1%          | 0%        | 1%  | 4.6 |
| 外国参加青年 | 59%        | 25%       | 12%         | 1%          | 0%        | 4%  | 4.5 |

5 自由記述

<良かった点>

- 私の人生を変えてくれたこと、そしてこの機会を与えてくれたことを日本国政府に感謝している。地元へ帰って、本当の変革のために活動し始める準備ができていると感じている。
- SWYが私の人生を変えてくれたことは明らかだ。この機会を持てたことに本当に感謝している。人類の将来は明るい。これから現実の社会に戻って世の中を良くしていくための本当の活動を始める250人のPYがいることを考えると、特にはっきりとそう言える。
- この事業はすばらしく、人生を変えるような経験だ。私の成長を助け、世界の様々な状況や世界の見方、そして参加各国の人々の生活についての理解を深めてくれた。
- 私がこれまでに参加した中で最高の事業の一つだった。この事業は、世界の人々と知り合う独特の機会を提供している。
- 私の人生の一つのターニングポイントとなった。事業を通して、新しいアイデアをたくさん取り入れることができたので、これから国へ帰って、自分のかかわっている青年コミュニティを対象に創造性のある事業を展開したい。
- この事業のおかげで、自分の居心地の良い範囲からいろいろな形で一步踏み出すことができ、これまで経験したことのない形でほかの国々と有意義なつながりを作ることができた。
- 社会のために良い活動をしたいという気持ちが高まった。事業のおかげで、これからどんなことが起こってほしいかをはっきりと意識できるようになったし、今私に何ができるのかもはっきりとイメージできる。
- SWYは、世界一の青年育成事業だと心から言える。全てのPY、アドバイザーの皆さん、そして日本国政府に「ありがとう」と言いたい。
- 事業のおかげで、これからの世界を担う若いリーダー仲間と知り合うことができた。
- この事業は、人生を変えるようなすばらしいものだ。私の思考や態度に変化をもたらしてくれた。企画・実施されている皆さん、本当にありがとう。
- 大海原に浮かぶ船で世界中の人々と一緒に過ごすことは、本当にすばらしくほかではできない体験だ。そこでは、自然と本当の意味で一体化し、人間の本当の心に帰り、周りの人々とつながることができる。
- 地球上のいろいろな場所に友達がいるという感覚はすばらしい。SWYのネットワークはとても強そうなので、世界にたくさんの良いことや平和をもたらすために活用されると信じている。
- 自分の能力を伸ばそうと努力する全てのJPYを尊敬する。
- この事業から多くを学び、私の人生のターニングポイントとなった。自分には想像以上の力があるということも分かった。祖国と世界のために、貢献していきたい。
- 私は、人生に一度の貴重なこの機会を与えて下さったことについて、日本国政府に一生感謝し続けるだろう。この事業は、世界最強の交流プログラムの一つと言えると思う。すべてに感謝する。
- この事業で得た最大のものは、JPYもOPYも含めて世界中のすばらしい青年リーダーと出会ったことだ。セミナーやコース・ディスカッションなどのほかのどんな部分にも増して大きな成果だった。ほかの参加者と深い話をする時間が少ないと感じる。
- 自分の暮らす社会の中でもっと活発に動きたいと思う。国際的なテーマについてもっと勉強し、英語力も伸ばしたい。
- 世界を良くし、各国間の相互理解を深めるこの事業のようなものが、もっと増えることを期待する。

- 世界をより良くする取組であるSWYの航海が、決して終わらないことを願う。なぜなら、私自身本当にたくさんのことをこの事業から学んだし、ほかの多くの人々もそうだろうと思うからだ。世界を一つにし、何が本当に大切なのかに気付かせてくれた。
- クラブ活動を通して、企画能力や時間管理の能力を伸ばすことができた。また、内容の準備や活動の企画を通して、自分自身の時間の使い方もうまくなった。
- 異文化を学ぶだけではなく、自分という存在を見直すとても貴重な機会だった。今までは夢でしかなかったものが、様々な人々との交流、意見交換を通じて、実現へと一歩ずつ進み始めるきっかけになった。
- 他の10か国がそれぞれの国旗や国歌に愛着を持っているのに比べ、日本人のそれがあまり感じられないのはどうしてだろうという疑問を持った。モーニング・アッセンブリーやNPでの国歌斉唱のとき、他国に対する敬意と世界平和を感じた。
- この経験を決して無駄にせず、必ず社会貢献をし恩返ししていきたいと思う。
- 異文化交流の面で多くのことを学んだ。言葉では知っていても実際に経験しないと実感としてないものと同じになる。それを経験できたのは大きい。
- 事前研修の時から「質問は全体の前でするように」と言われ、「失敗しても問題ない。SWYは安全な場所だから」と励まされ、たくさんの人に創造性を自由に発揮できる機会を与えられた。本当に感謝している。
- 日本と外国を知り、日本と自分について知ることができた。文章にすると安っぽい言葉になるが、心からそう思う。
- 常に、自分と向き合っていた。こんなことは初めてだった。苦しくて逃げ出したくなったこともあったが、向き合った時間は絶対ムダではなかったし、そのおかげで自分がパッションを感じるものが何か発見できた。違う文化の人とこんなに深く関わった経験がなく、正直今自分でも驚いている。
- この事業に参加できて本当に良かった。初めての海外経験、初めての異文化交流、初めての家を離れての長期生活と、全てが自分にとっては新しいことばかりで、不安や辛いことも多々あったが、とても刺激的な2か月間だった。「グローバル」という言葉に対するある種の拒絶感も消え、自国に対する見解や課題、更には歴史的なものまでも知りたいと思えるようになった。
- 行動で証明し、社会に貢献できるようになるためにも、日々の学び、努力をためずに続けていこうと思う。
- プログラム開始前は、リーダーシップや国際社会のことについて学ぶプログラムだと思っていた。それはもちろんそうだったが、驚いたのはそれ以上に自分のことについて考えることが多かったことである。様々な人々との交流や多くの学びを通じて、自分とは何かを考えさせられた。多くの人々からの支えで自分は変わったとを感じる。
- 世界に友達がいるということは、平和を願い、実現していくために欠かせないわけではないが、大切なことだと思った。OPYが自分の進んでいきたいビジョンを持ち、「それを実現するために今何をすべきか」を明確に考えていることが尊敬できるし、私も見習いたい。他の人のうわさやねたみを聞かない（気にしない）。Be Positiveでいること。船を下りても、忘れないでいようと思う。
- 向上心のある人が多く、非難したり無関心だったりする人もおらず、自分のアイディアを発信しやすかった。OPYやすばらしい人たちと一緒にいて、私は自分で自分の才能を潰していたんだと気付かされた。今後は、私の人生の目的や自分の才能を発揮して、自分のできる社会貢献をしていきたい。

#### <悪かった点>

- PYがもっと自ら問題を解決していくようにした方が良いと思う。
- 私はこの事業を楽しんだし、知識も得、そして10か国に自分の第2の家族を持つことができた。しかしながら、今年の事業にはマイナス面も多かった。例えば、四つのセミナーとコース・ディスカッションが組み込まれていたこと、短い時間に諸々の活動が押し込まれていたことなどである。管理部からJPYへのプレッシャーがすごかったし、OPYがJPYと個人的に知り合う機会が少なかった。
- 専門的なことを学ぶ企画のいくつかは、そのレベルがOPYを満足させるものとはなっていなかったと感じている。
- コース・ディスカッションには、もっと現実的で具体的な内容を増やすべきだし、ファシリテーターは、実際にビジネスに従事している人であるべき。話し合いはたくさんしたが、学ぶものはほとんど無かったと感じている。
- 寄港地にもう少し多様性があると良かった。インドとスリランカは、いろいろな面で似ている部分が多かった。
- スケジュールがきつ過ぎると感じた。ほかのPYと話をする時間が十分に無かったし、勉強したことを復習する時間も無かった。なので、仕方なく夜更かしせざるを得なかった。
- 要求されるものの多さからスケジュールがきつくなり過ぎており、多くのPYが自分自身にプレッシャーをかけていた。
- PYの集中力を上手くコントロールできていないように感じた。そのため、集中力を存分に発揮した活発な議論がなされることは稀で、プログラムをただ単にこなしている感覚に陥った。結果、夜の自由時間は最も重要なはずであるPY間の知的な会話の不足に嘆くPYが多かったのだと感じている。
- スケジュールがタイトで、交流時間の不足を感じた。